

2008年10月16日
株式会社日立製作所

「東京スカイツリー」向けに、日本一高い*展望施設用の高速・大容量エレベーターなど、エレベーター、エスカレーター19台を受注

株式会社日立製作所(執行役社長:古川 一夫/以下、日立)は、このたび、東武鉄道株式会社(取締役社長:根津 嘉澄)および東武タワースカイツリー株式会社(取締役社長:宮杉 欣也)が東京都墨田区にて進めている「業平橋押上地区開発事業」の中核施設である高さ日本一のタワー「東京スカイツリー」向けに、同施設の施工を担当する株式会社大林組(取締役社長:白石 達)から、昇降機 19 台を受注しました。今回受注した昇降機は、展望施設として日本一高い地上高 450m の第 2 展望台用(第 2 展望台と第 1 展望台の往復用)高速・大容量エレベーター 2 台を含むエレベーター 7 台、エスカレーター 12 台の合計 19 台です。

今回、日立は、7 台のエレベーターを受注しましたが、日本一の高さとなる地上高 450m に位置する第 2 展望台に来場者が昇る際に利用するエレベーター 2 台はともに日立が納入します。エスカレーターについては、3 階層に分かれた第 1 展望台内の移動用のエスカレーター 2 台など 12 台を受注しており、「東京スカイツリー」内の全台数を納入することになります。

日立は、1968 年に竣工した日本初の超高層ビルとされる霞ヶ関ビルに、当時日本最速の分速 300m の超高速エレベーターを納入して以来、2003 年には六本木ヒルズに分速 300m、積載質量 2,900kg(1,450kg×2、定員 44 人)のダブルデッキ(2 階建て)エレベーターを納入し、2007 年にはクウェート最高層のビル「Al Hamra Mixed-Use Complex」向けに中東最高速*となる分速 600m の超高速エレベーターを受注するなど、国内外の超高層ビル向けに、多数の超高速・大容量機種を受注・納入してきました。また、エスカレーターについては、安心・安全機能に強みを有しており、2008 年 1 月に発売した新型エスカレーター「VX シリーズ」は、ハンドレールからの乗り出しを自動検知して音声アナウンスで注意喚起する、日立独自の「アクティブマルチセンサー」などが高く評価されています。

日立は、日本、中国、中東をはじめとする、超高層物件の需要が見込まれる地域に、超高速・大容量エレベーターを積極的に展開するとともに、安心・安全機能を高めたエスカレーターの拡販を図り、昇降機事業の拡大を図っていきます。

*2008年10月16日現在

「東京スカイツリー」について

「東京スカイツリー」は、東武鉄道グループが 2011 年度の竣工をめざし建設を進めている地上デジタル放送対応のタワー(電波塔)です。2 つの展望施設をはじめ、放送施設、店舗などを擁しており、最上部の高さは約 610m と、世界最大級の高層建築物となります。また、この高さ 450m に位置する第 2 展望台は、日本で最も高い展望施設となります。

「東京スカイツリー」の施設概要

所在地:東京都墨田区押上一丁目

建物規模:地上高約 610m

用途:展望施設(第 1 展望台(レストラン、ショップ等)、第 2 展望台)、放送施設等

施工:株式会社大林組

設計:株式会社日建設計

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
